

福岡県肢体不自由児療育キャンプ



1. キャンプ種別

(1) 進行性筋萎縮症児のキャンプ（県内の進行性筋萎縮症児及び保護者対象）

- 期間 7月22日（土）～23日（日） 1泊2日
- 募集人員 25名
- 場所 やすらぎ荘（朝倉郡筑前町大字三箇山 508）

(2) 海のキャンプ（県内の小学校3年生～中学校3年生の在宅肢体不自由児対象）

- 期間 8月10日（木）～12日（土） 2泊3日
- 募集人員 50名
- 場所 福岡県立少年自然の家「玄海の家」（宗像市神湊 1276）

(3) 山のキャンプ（県内の小学校3年生～中学校3年生の在宅肢体不自由児対象）

- 期間 8月25日（金）～27日（日） 2泊3日
- 募集人員 30名
- 場所 やすらぎ荘（朝倉郡筑前町大字三箇山 508）

※上記（2）及び（3）のキャンプは、高校生でも申込状況によっては参加可能な場合があります。

2. 申込期間等 5月8日（月）～25日（木）まで うきは市福祉事務所 福祉係で受け付けます。

3. 参加決定方法 参加定員を超えた場合は、専門医師の書類審査後、抽選により決定します。

●問合せ先

- ・福岡県肢体不自由児協会（春日市原町 3-1-7 クローバープラザ内）Tel (092) 584-5723
- ・うきは市福祉事務所福祉係 Tel 75-4961

認知症公開講座の開催報告

3月23日に浮羽医師会と共催で、「認知症をより良く生きる社会をつくろう」認知症になった「私たち」からのメッセージというテーマで公開講座を開催しました。内容は、

- ①大牟田市ライフサポート研修会代表の大谷のみ子氏の講演
 - ②若年性認知症当事者さんへのインタビュー形式によるメッセージ
 - ③サクソ奏者、深町 宏氏によるリラクゼーションタイム サクソ演奏
- の三部構成で行いました。

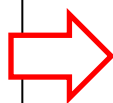
今回は、大谷氏の講演内容を主にお知らせします。講演は、オールドカルチャー（古い考え方）から**当事者の意見を取り入れた新しい考え方「ニューカルチャーへのまちづくり」**についてありました。

オールドカルチャー（古い考え方）は、「他人事」の考え方で、これではよりよい社会にはならず、ニューカルチャー（新しい考え方）、我が事の社会として考えていくことが大切と講演されました。



オールドカルチャー（古い考え方）他人事

- 1 認知症だから仕方がない。
- 2 認知症になると何もわからなくなる。
- 3 認知症は本人より周囲が大変だ。
- 4 病気や症状ばかりに着目している。
- 5 家族や一部が抱え込み、負担が増大。
- 6 行政がすればいい、病院、施設に任せておけばいい。



ニューカルチャー（新しい考え方）我が事

- 1 認知症でも治療やケアの効果が期待できる。
- 2 認知症でも感情や心身の力が豊かに残っている。
- 3 **本人、中心、本人理解が基本。**
- 4 病気や症状ではなく、認知症の「人」に着目する。
- 5 専門職と地域がチームで関わる。
- 6 地域全体で見守る。

認知症は、何らかの病気が原因となっておこる脳の病変であり、本人が一番困っています。「認知症」という目線ではなく「**その人、〇〇さん**」を、「機能低下」ではなく「**不自由さ**」を、「無くなったもの」ではなく、「**あるもの**」を見ていく目線が大切だというお話がありました。

また、大牟田市での認知症カフェを始められた際、名前を「認知症カフェ」ではなく「物忘れ予防カフェ」の名称にしようとした話題もありました。しかし、皆の話し合いで**名前を変える事自体が「偏見」になると気づかれ、また名前を元にもどし「認知症カフェ」と明記し運営されています。**

講演会参加者からは、「いつでも当事者に耳を傾け意見を聞くことが大事だという事に改めて気が付きました」等の感想を頂きました。

参加して頂いた多くの皆様、ありがとうございました。次回は認知症当事者のインタビュー形式によるメッセージについてご紹介します。

- 問合せ 地域包括支援センター Tel 75-4105